

## 被爆三世の広島出身者がキルギスで語る平和への想い

- キルギス共和国では、海外協力隊員が中心となり、今年8月6日から13日まで国立歴史博物館にて、「平和」と「復興」をテーマに「再起」と題した展示イベントを開催しました。
- 広島出身の合田大使を来賓に迎え、8月6日のオープニングセレモニーには約200名の来場者が訪れ、「再起」をモチーフに地元アーティストが作成した作品や原爆に関する展示物、会場に飾られた数多くの折り鶴に足をとめました。
- 8月9日にはJICAキルギス事務所川本寛之所長より、被爆の実相とその被害から市民が立ち上がったストーリーに関するプレゼンを行いました。
- 川本さんは広島市内出身で祖父母が被爆者です。爆心地から1.6キロの距離にいた祖母は被爆者の凄惨な状況、非戦の願いを川本さんに語ってきました。大のカープファン、川本さんは広島の復興の過程と市民球団カープとの関係を説明し、戦争がなくスポーツを楽しめることの平和の有難さについてキルギスの方々に語りかけました。
- G7広島サミットの終わったあとも、被爆の実相を伝え、その後の広島の復興、核のない世界の重要性を伝えることを広島出身者として川本さんは大事にしています。キルギスは地政学的にウクライナと戦うロシアに近く、首都ではロシア語が一般的に話されています。そうした場所でこそ語る平和への想いはとても重みがあります。オンラインでの取材可能ですので、ぜひご検討、ご相談ください。



原爆展パネルを見るキルギス市民



プレゼンを行う川本さん

### 【本企画に関する問い合わせ】

JICA 中国 市民参加協力課 担当: 澁谷  
TEL: 082-421-6305 FAX: 082-420-8082  
E-mail: Shibuya.Kazuro@jica.go.jp

地域から世界へ、世界から地域へ  
元気をつなぐ JICA 中国

JICA 中国ウェブサイト

